

「奥が深い」ということ

まもなく卒業証書の生徒氏名の浄書が終わります。今年度は一〇五名の生徒の名前を書いています。感染症の影響を受け、卒業式も短縮や対策強化が叫ばれています。せめて、証書の生徒名についてはこれまで通り、心を込めて丁寧にしたためようと思っっています。いつも見たり書いたりしている名前と言えども侮あなとることなかれ。書き終えた字がしっくりこない時があります。「何か違うなあ」と思い、納得できないことも度々あります。証書の枚数は限られていますが、何枚も失敗するわけにはいきません。別の用紙に同じ文字を十回二十回と書いて練習するのですが、納得できない原因はなかなかつかめないものです。

そういう時はどうするか……手本と見比べるしかありません。改善したつもりの文字を何度も練習するよりも、手本の字を見て、自分の書いた字と見比べます。すると、私が気に留めなかった部分に目が止まります。自分の字と手本の字の間で、視線を行ったり来たりさせると、その違いがはつきりと自覚できるようになります。

最近では「彩」の字がその最たるものです。十一画のこの文字は決して難しい字ではありません。バランスもとりやすく書きやすい字の一つです。近年、女子生徒の名前に多く使われるようになったので、書く回数も増えました。それに伴って、気になり始めたのだと思います。

その「彩」の字を書くたびに、「何か違うなあ」としっくりこない感覚が私にはありました。画数の多い隣の「采」を意識しながら何度も何度も練習しましたが、私の感覚は改善されません。そこで、私は手本と自分の字を見比べてみました。

すぐに、わかりました、私の字と手本の字の違いが！私は隣の「采」の方ばかりを意識していましたが、意識すべきは部首の「彡」（さんづくり）でした。左払いの画が上下に三本並んでいるだけと思いきや、その三本の向きが微妙に違っていました。とりわけ最も下に位置している三本目の左払いは、上の二本よりも下に向けて開いています。左払いの画が三本平行に並んでいるだけではありませんでした。

さらに、左払いの三本は、全て長さが違っています。中、上、下の順番で長くなっています。「左払いが三つ重なっているだけだ」という「彡」についての私の思い込みが、しっくりこない原因でした。

「奥が深い」というのはこういうことを言うのでしょね。生活をするうえで何も支障をきたさないことでも、よくよく考えてみると、違いや特徴がわかってきます。あまりにも身近過ぎて、気に留めることがないと思える中にも、突き止めるべきことはたくさんあるようです。私はそのことに、卒業証書の浄書を通して気付きました。あなたの名前の由来にも、奥深さがあるかもしれませぬ。一度調べてみるといいですね。

(二月十四日記)